

## 令和5年度 児童朝会 37 講話

令和5年4月24日 【さいた 2】

みなさん、おはようございます。校長先生の言葉は皆さん的心に届いていますか。

先週の授業参観、どの教室でもみなさんがんばっていました。偉かつたですね。

さて、先週のお題ですが、少し難しかったようです。

「どうして文章では文字がいくつかなくとも意味がわかつてしまうのでしょうか？」です。

文字は目で見えるけど、音楽は耳で聞くだけだからというような答えが多かったかなと思います。ほとんど正解に近いかと思います。さすがですね。

正解は、文章は「文脈」、文のすじみちが見えるからということになります。

こちらは中尾清月堂というどらやきやさんのポスターなのですが、何か困ったことはありませんか。

みなさにだじいなおらしへ。  
こたのびなかおせいげどつうが  
ぜたついにばれないように  
どやらきのリニュアルを  
おなこいました。

中尾清月堂

よく見ると、めちゃくちゃな文字の並び方なのに、なんとなく意味はわか

ります。これが文脈があるということです。

さらに、言葉は特に最初の文字と最後の文字さえあっていれば、意味が通ってしまうこともわかっています。

たとえば、

「おおすにみししようがっこう」と書いてあれば、誰もが大隅西小学校と読んでしまいます。

また

「おおすみにしようがっこう」のように一文字抜けていても、なんとなく意味はわかつてしまいます。このような現象をタイポグリセミアと言います。

これらは、間違えて読んでも意味が通るのでいいのですが、中には違った意味になるときもあります。

たとえば

校長先生は敵だ！

ここにある1文字を足すと、まったく逆の意味になります。

少し難しいですね。

これを今週のお題とします。何という文字をどこに入れると、反対の意味になるでしょうか？

わかったよという人は、校長室前に書きにきてください。

今日も最後まで聞いていただき、ありがとうございました。